金光上人鑽仰御和讚





(歌詞は111ページ)

こんこうしょうにんさんごう 金光上人鑽仰和讃

高津 ときを 作詞

- 1 津軽の里の 飢え寒さ 吐血の病に 倒れつつ 陸奥の土地みな 浄土化を 祈り求めし 聖あり
- 5 ああ殉教の この聖者 七七八歳 闘いて 望保の春に 逝きしより 今に七百 七十年
- 2 名は石垣の 金光房法然上人を 師と仰ぎ二祖聖光と 並び立つ高徳英智の 行崩僧
- 6 南無や尊き そのみあと 野辺の夕陽も 金光の いのちとばかり 輝きて とわにわれらを 照らすなり 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏
- 3 花浴をあとに 蝦夷地もと 製州行花の 死の旅路 悲願のはては 行笠前 馬捨の森の わび住居
- 4 耳には驚響の **阿**菜唄 身には克若の 降るなかを 茶軽栄士も さながらの 苦難に耐えて 法を説く

(楽譜は112ページ)

ポイント注意 陽旋法の音程に気をつけます。後段の「祈り求めし」を頂点に力強く盛り上げます。

最後2小節のハーモニー、4度の共鳴をていねいに。 最終「お念仏」は力強く、ゆっくり「あみだぶつ」とオクターブのハーモニーで 終ります。合唱として唱えなくても結構です。